

## 当院で行っている大腸肛門検査

### 1)大腸内視鏡

おしりから軟らかいスコープを大腸の奥に向かって挿入します。大腸の中に便の通過を妨げるようなできものがないかを確認するのは勿論、その他にも憩室の存在や大腸の長さや緩み具合などがある程度把握できます。

### 2)注腸X線造影

おしりからバリウムと空気を注入してレントゲン写真を撮ります。得られる情報は内視鏡と近似しているところもありますが、その方の大腸全体の形状を外側から見れるのが有利な点です。

### 3)排便造影

おしりからペースト状に練ったバリウムを注入し、レントゲン下でそれを「排便」していただきます。排便時の直腸肛門の様子をつぶさに観察できますので、「直腸瘤(直腸の壁の一部が腔側に飛び出してしまうような状態を言います)」など内視鏡では見えないような直腸出口付近の排便時の以上を掴むことができます。

### 4)直腸内圧測定

おしりから直腸内にごく細い管(トランスデューサー)を挿入して、中の圧力などを測定する検査です。例えば便失禁で悩む方にこれを行えば実際に肛門括約筋がどの程度緩んでいるかが数値でわかりますので、治療に反映させることができます。その他にも、直腸神経反射試験を通じて直腸肛門管粘膜の感覚が正常に働いているかなど、神経機能の一部も測定することが可能です。